

海外の話題

学生との交流～ちょっといい話～

農林中央金庫 北京駐在員事務所長 米坂 樹紀

ここ数日の間に立て続けに二つの交流会に参加する機会を得た。ひとつは北京に留学中の日本人留学生との交流会（日本俱楽部主催）。もうひとつは訪日視察してきた中国人大学生による報告会（中日友好協会、日本商会主催）。私といえば、社会人になって20年以上このかた、リクルーター機会に恵まれず学生との接点は皆無であったため、今回参加した学生との交流は非常に新鮮なものであった。

えつー、何で北京やの？

まずは日本人学生の評から。極めて礼儀正しく、自分の考えをしっかりと持っている学生が多いということ。自分の学生時代を思い起こすと恥ずかしくなるばかりである。何故、北京の日本人学生は自分をしっかりと持っているのか。彼らが中国に留学したいと考えたとき、親、友人等周囲の反応はだいたい次のようなものだったという。

「何で北京なの？」「空気悪いんやないの？」「反日とかで危ないんちやうの？」

という具合に気持ち良く送り出してくれるケースはほとんどなく、中には強く反対されるケースもあったという。そこを乗り越えて、中国に来て勉強しようというのだから、チャラチャラした学生はまず来ない。中国に留学してみて実際どうだったかという問い合わせに対して、学生らは一様に「好了！」。

涙を誘う日本滞在報告

次に中国人学生について。こちらも真面目で優秀。皆専攻は様々だが、日本語もしくは英語が堪能。私に対して「大学では何を専攻していたのですか？」と、およそ日本でされたことのない質問をしてくる学生が多かつたことが印象的だった。

中国人学生らは8日間の訪日行程で企業、大学等を訪問・交流したことを報告するわけだが、これが実に感動的なプレゼンテーションとなる。行程中のホームステイでの出会いと別れについて中国人学生が報告する場面が、である。

日本滞在中は基本グループで行動をとるが、例外なのが行程中2日間のホームステイである。初めての訪日で日本語ができる学生であろうがなかろうが皆不安いっぱいだったようである。ホテルの会議室に一同に集められた学生らがひとりまたひとりとホストファミリーに連れられていく。まるでドナドナのように。

しかし、ホストファミリーの温かいもてなしに学生は次第に不安も解消していく。朝から長男が先に並んでスカイツリーの入場整理券を手配してくれた一家、アキバに連れて行ってくれた一家、人気ラーメン屋に連れて行ってくれた一家、手料理でもてなしてくれた一家・・・ホストファミリーの質素ながらも一生懸命なもてなしに、中国人学生はいつしかホストファミリーと別れ難くなる。

そして別れの日。駅まで送ってくれたホストファミリーと抱擁しては号泣するのである。「また来てね」「絶対来るね」と言って。

私はこのシーンを思い出すと目頭が熱くなってしまうのであるが、報告会に参加していた某大手メーカー役員はこう仰っていた。

「心洗われるやろ、この感動を味わうために毎回報告会に出とるんや」

600回以上の感動シーン

訪日団の派遣はこれまで21回を重ね、延べ600以上の中国人学生を日本に送り出してきたという。600回以上の感動シーンがあったわけである。その間には両国が政治的に緊張した局面もあったにもかかわらず、感動シーンは途切れることはなかったという。

自分をしっかり持った日本人学生、見返りを求めずホスピタリティを発揮するホストファミリー、日本のファンになった中国人学生、心根の澄んだ企業人・・・これだけ揃って人ととの交流が続いているれば、国と国との関係も発展するはずである。

「一生忘れない経験をさせていただきました」と中国人学生は感謝の言葉を述べていたが、私にとっても忘れられない学生との交流会であった。